

経営情報系大学生の英語学習と動機づけに関する一考察

A study of EFL Learners and their Motivation at Business Management and Information Systems University

池田広子 福森 貢

要 旨

英語指導の目標は、国際化・情報化時代を見据え、1) 世界の文化の多様性と普遍性の理解、2) 四技能におけるコミュニケーション能力の育成、3) 専門分野の文献を読んだり、レポートを作成したり、また発表する際に必要とされる英語の基礎能力の育成にある。

この目標を達成するため、学生を取り巻く社会環境の変化や学力の変化、時代の要求などを考え合わせ、学生の学習意欲を高めるための工夫が望まれる。が、そのカギになるのが学習者への「動機づけ」をどうすべきかである。

学生の意識の中では、自己を高めたいという欲求、それを満たすための学習活動、目標を持って学習に励みたいという認識は十分に存在する。それにまた彼らにとって能力の向上や学習成果の評価などは気になるところでもある。

そこで今回は、大学入試という目的を終えた学生に的を絞り、英語学習の「動機づけ」について、TOEICテストと英語学習のアンケートをもとに、効果的な学習指導の方向性について模索した。

キーワード: Motivation、Consciousness、Routinize、英語学習の意識化・習慣化

はじめに

社会のニーズとして、世界の産業構造を変革するような有為な学生を育成し、また未来を切り開く主体性のある人材育成が昨今要求されている。このようなニーズは、英語という教科の位置づけにも重要に関わってきており、教科としての英語というよりは、道具としての英語が今や重視されている。

こうした時代の要求を考え合わせて学生の学習意欲を高めるためには、英語教育での Motivation Learningのあり方を工夫しなければならないと考える。特に授業展開の上で「動機づけ」をどのように図るかは重要な課題であり、学習者の学習意欲を引き出す指導上の工夫や指導を意識化することが必要である。指導側が惰性で指示を出したり、意味もなく活動させたりしていたのでは学習効果は上がらないといつてよい。

ところで「動機づけ」に関する研究の課題として、二つの側面がある。その一側面が「動機づけ」

モデルの構築である。日本での動機づけに関する研究は、90年代以降、Gardnerらの社会教育的モデルを拡げる形で、教育心理学などにおける研究成果を積極的に取り入れた、包括的で教育的な「動機づけ」モデルの構築がめざされてきた。これらの研究の大半は量的研究に基づき、統計的検定を通じて有意差の検出や相関の有無などが議論されてきている。そして第二の側面が、「動機づけ」というconstructの特性についての研究である。「動機づけ」とは、行動を起こしそれを維持する過程を指すもので、学習者内にある固定的なconstructだけに起因するものではない。学習者の「動機づけ」は教師や周りの学習者、またはタスクの性質などとのインタラクションにより、流動的にconstructされていくものである。したがって、実践に役立つような理論を創り出すためには、「動機づけ」の状況依存性とその過程を捉えることが必須となる。

そこで学習意欲を高めるためのMotivation Learningが、興味を引き出す授業であれば学習内容はよく理解でき、さらに学習意欲が高まるという循環が起こると考えられる。学習意欲を引き出す一般的な要素として、①わかりやすい授業、②面白い授業、③受験（資格試験・進学など含む）や将来（就職など）のために役に立つ授業などが挙げられる。

こうしたことを踏まえて日本の英語学習・教育の状況をみたととき、大学一年生では少なくとも六年間の英語学習の経験があり、それらの学習過程の流れを考慮する時、既存の学習習慣を一変させることはなかなか困難である。しかし、今までの学生の学習意識を知ることは、Motivation Learningを行う上では必要不可欠なことである。今、学生は英語学習に対して何を望み、また彼らの英語学習（英語を学ぶための目的・理由など）や英語の資格などについての意識を知ることによって、英語学習・教育指導の方向性は見出せると考える。

I. 研究目的

近年の入試形態の多様化に伴い、一クラスの中でも学生の英語能力に差が広がった。このため、学生の授業に対する手応えにも差を生みはじめており、英語の語学力や基礎学力の低下、テキストの重要点が把握できない学生が急増している。もちろんそこには学生の変容という側面と大衆化した大学という環境的な要因も考えられる。

今回の調査では、入学後すぐにTOEICにチャレンジするには少しハードルが高いと感じる学生が多いと思ったため、TOEIC Bridgeを活用した。これによって、①学生に対する動機づけが容易になる。②得点の推移に基づいて、学生の能力向上が容易に自己診断できる。③単語・フレーズ・文が実用的で、整理しやすく、効率化が図れる。④会話のスピードがややゆっくりで、使われている表現や語彙も基本的なものが多い。⑤頭をひねって考えなければ得点が取れないような問題が少ないこと、またビジネス英語に関してもやさしい初歩の表現で、基本的な英語力を測定することができる判断した。

そこで本研究では、(1)このテストにより英語力の伸長率（スコアの伸び）を調査した。そして、その後の学習への「動機づけ」につながるかどうかを、(2)アンケート調査をもとに、英語の運用能力の伸長率の状況分析と、学習者の英語学習への興味・関心がどこにあるのかなど、学生の英語学習への意識とその動向を把握し、英語学習に興味を持たせるきっかけとなる「動機づけ」の方向性について考察することにした。

II. 被験者および調査方法・調査時期、英語学習アンケート

II-1. 被験者

情報経営系学生、2003年度の1年生135名（内女子学生20名）、2004年度の1年生108名（内女子学生11名）を対象とした。

前期授業ではTOEIC模擬テストを毎回実施し、TOEICのテスト形式に慣れさせることを心がけた。

英語学習アンケートは2004年度の1年生を対象に実施した。有効アンケート数は92名（内女子学生11名）であった。

II-2. 調査時期

2003年度4月上旬と8月上旬、2004年4月上旬と8月上旬のそれぞれ4回実施した。

II-3. 調査方法

従来のTOEICテストが身近な内容からビジネスまでと幅が広く、大学1年生の4月入学直後では難易度が高いと考えられる。が、TOEIC Bridgeは、話題も日常的で身近な内容で測定範囲も初級から中級レベルを受験対象としている。そこで上述のように基礎的な英語の能力を測定するのに適したTOEIC Bridge（国際ビジネスコミュニケーション協会作成）を使用した。テストの問題構成と時間は、Listening Section 50問（25分）、Reading Section 50問（35分）のトータルで100問。これを60分で解答することになるが、時間的にも学生にとってそれほど負担がない範囲で終了可能である。Listeningは3つのPartから構成されており、Part I（15問）、Part II（20問）、Part III（15問）。ReadingはPart IV（30問）の空所補充問題、Part V（20問）読解問題から構成されており、選択肢による解答方式である。

本学では、2003年にTOEICの模擬問題を、パソコンで回答処理を可能にするソフト開発を行った。^(注1)これによりネットワークを利用した回答データの収集と、効率の高いデータ処理が可能になった。

II-4. 英語学習についてのアンケート調査

4月上旬のテスト時に、無記名で、英語学習や資格についてのアンケートを1年生全員に実施した。アンケート項目は、I.英語学習に関するもの(33項目)、II.英語の資格に関するもの(7項目)、III.年齢・年数・その他について(6項目)の分類し、選択肢は3項目から5項目とした(一部 Ely:1986,小栗:2001を参考)。

II-5. 仮説

入学後のクラス編成試験としてTOEIC Bridgeを活用し、そのスコアで能力別にクラス編成を行った。このことで、(1)能力別クラス編成にしたことが、競争心を芽生えさせ良い点を取りたいという内発的動機づけにつながる。(2)目標(TOEICのスコアを伸ばしたい、英語関係の資格を取りたいなど)を持つことは、学生の学習意欲を増加させ、成績向上につながると考えられる。

III. 結果の分析と考察

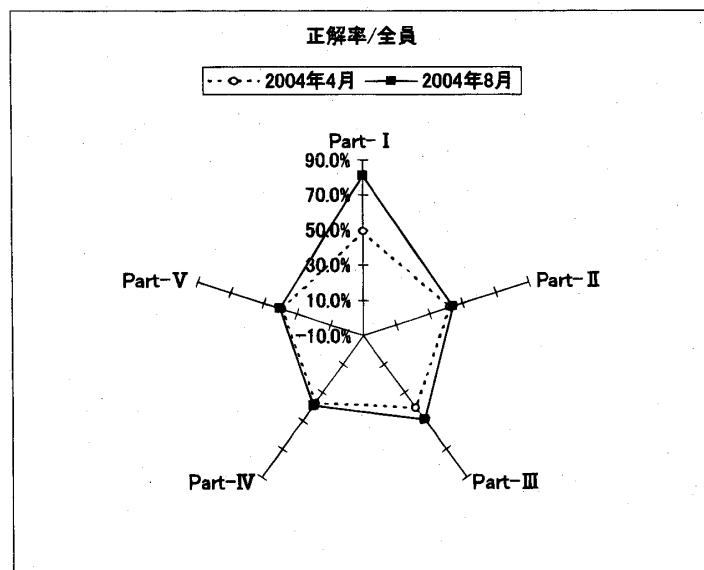
III-1. TOEIC Bridgeのテスト結果

入学後の4月上旬と1年生の前期終了時の8月上旬に実施した結果(正解率)を、分類別(Part I~Part V)に全体、男子、女子に分けてデータ処理した。4月と8月で有意な差があるかどうかの目安としてpaired t-testを適用した(fig.-65~fig.-70)。

fig.にみるようにPart-IとPart-IIIに有意な差が確認できた。

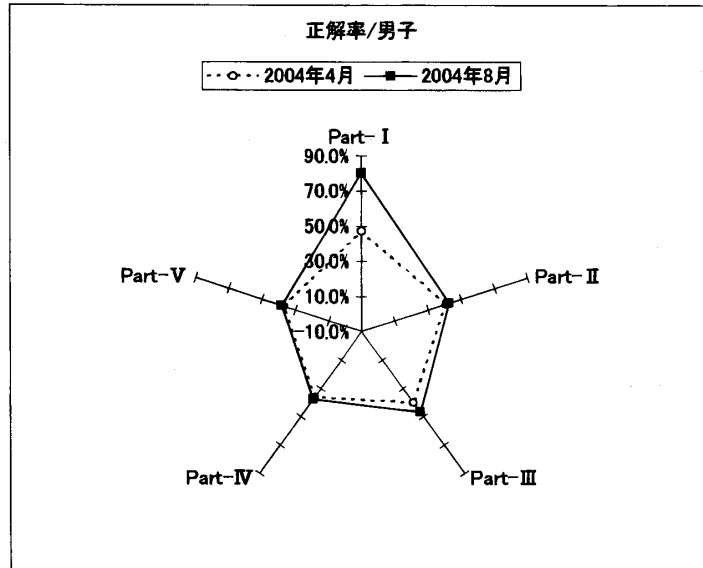
〈fig.-65 正解率/全員

区分	問題数	2004年4月	2004年8月	有意差 ($\alpha=0.05$)
Part-I	15	49.3%	81.1%	あり
Part-II	20	42.2%	44.0%	なし
Part-III	15	40.9%	49.1%	あり
Part-IV	30	37.4%	39.4%	なし
Part-V	20	39.0%	40.3%	なし



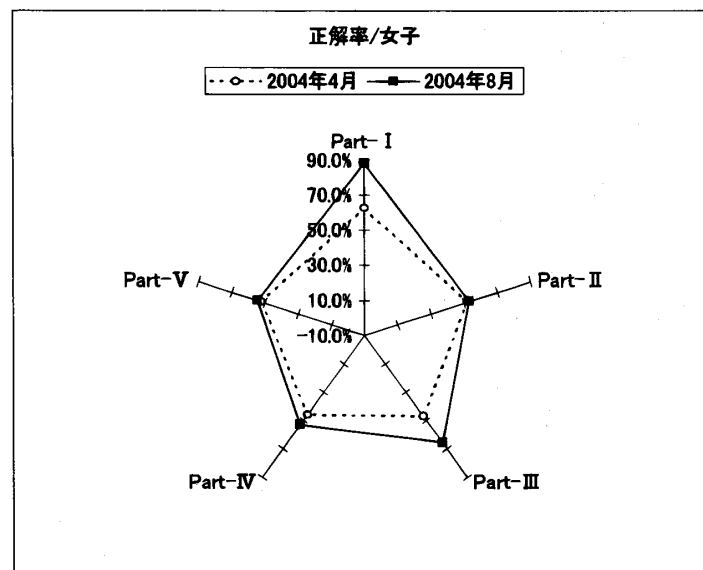
(fig-66 正解率/男子)

区分	問題数	2004年4月	2004年8月	有意差
Part-I	15	47.4%	80.1%	あり
Part-II	20	40.7%	42.6%	なし
Part-III	15	40.0%	48.7%	あり
Part-IV	30	38.1%	37.5%	なし
Part-V	20	37.1%	38.2%	なし



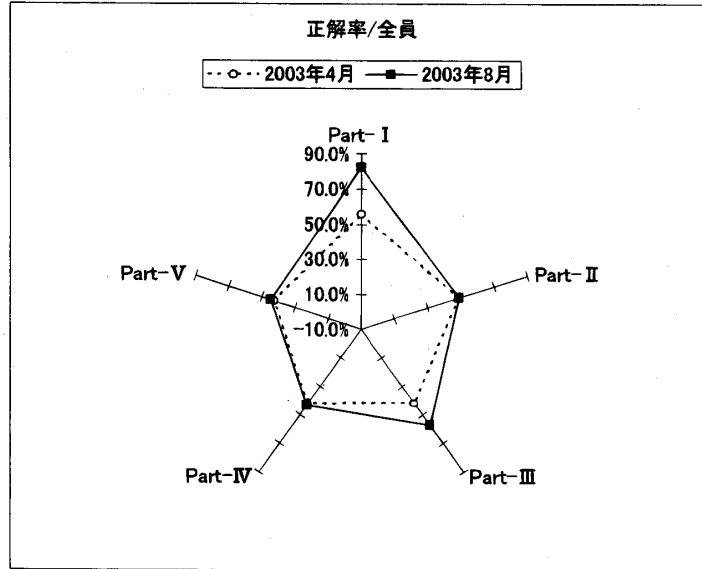
(fig-67 正解率/女子)

区分	問題数	2004年4月	2004年8月	有意差
Part-I	15	62.7%	88.0%	あり
Part-II	20	52.0%	53.0%	なし
Part-III	15	47.3%	66.0%	あり
Part-IV	30	48.0%	53.0%	なし
Part-V	20	52.0%	54.5%	なし



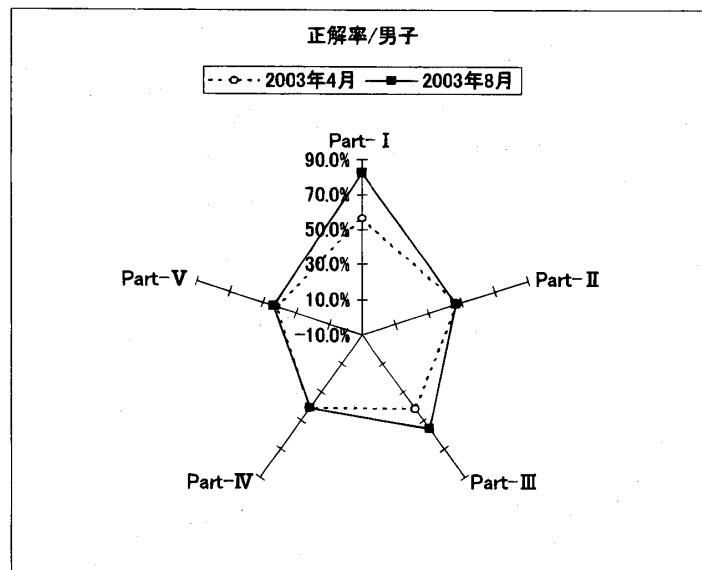
《fig-68 正解率/全員》

区分	問題数	2003年4月	2003年8月	有意差 ($\alpha=0.05$)
Part-I	15	56.2%	82.5%	あり
Part-II	20	48.8%	48.9%	なし
Part-III	15	41.6%	57.3%	あり
Part-IV	30	42.4%	43.1%	なし
Part-V	20	42.7%	44.6%	なし



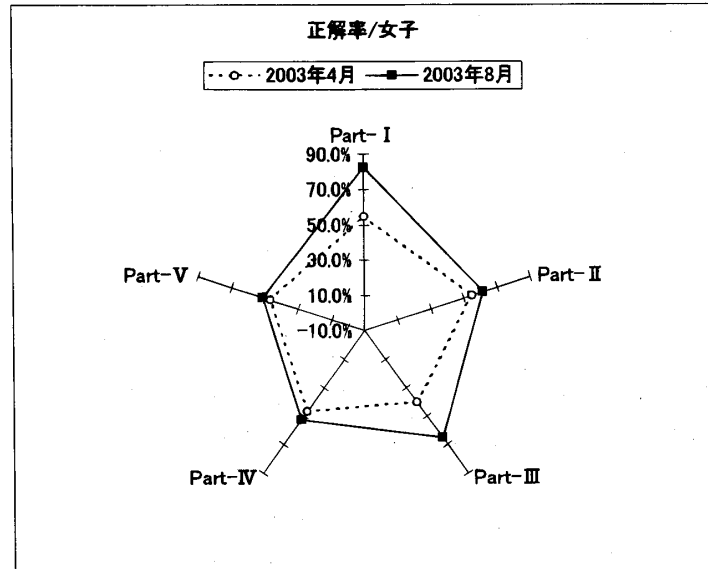
《fig-69 正解率/男》

区分	問題数	2003年4月	2003年8月	有意差 ($\alpha=0.05$)
Part-I	15	56.4%	82.5%	あり
Part-II	20	47.8%	46.5%	なし
Part-III	15	41.9%	55.7%	あり
Part-IV	30	41.5%	41.3%	なし
Part-V	20	41.9%	43.3%	なし



(fig-70 正解率/女)

区分	問題数	2003年4月	2003年8月	有意差	($\alpha=0.05$)
Part-I	15	55.1%	82.7%	あり	
Part-II	20	55.0%	61.3%	なし	
Part-III	15	40.4%	65.3%	あり	
Part-IV	30	48.7%	52.7%	なし	
Part-V	20	47.0%	51.3%	なし	



テスト結果の分析から、Part II, IV, Vの伸長率（スコアの伸び）がみられなかった。この点について考察してみると、Part IIは、絵や文字媒体がない応答問題である。今までの英語を学ぶ習慣が文字からであったことが多く、こうした耳だけの学習習慣が不十分であることが、スコアが伸びなかった一原因であると考えられる。

(一例) Part II-28 It didn't rain yesterday, did it? (20.5%)

- (A) Yes, quite heavily.
- (B) No, they weren't.
- (C) Yes, until tomorrow.

「昨日雨がたくさん降ったかどうか」と尋ねているので、heavilyの意味が理解できなかったか、また否定疑問の答え方を十分に理解していないために正答率が低かったと考えられる。

Part IVは、空所のある英文が与えられ、その空所を補って完全な英文にする問題形式である。6年間の英語教育で文法面での学習が軽視されている現状を考えると、やはりそのためかその能力があまり身につけていないことがわかる。それに学生の語彙力が十分ではないことなども、文法・語彙問題でのスコアに伸びがみられなかった要因と考えられる。

(一例) PartIV-67 It is important carry proper……on international trips. (20.5%)

- (A) identity (同一性、個性)
- (B) identifies (…を確認する、身元を確認する)
- (C) identification (身分証明書)
- (D) identifiable (同一であると証明できる)

itを形式主語とするit is ... to do の構文。it is important to do で「…するのが大切である」の意味。空所はcarryの目的語が入ると考えられ、選択肢で目的語になるのは(A) か(C) である。

Part Vは読解問題で語彙力と速読力がかなり必要とされるため短期間の学習では、テストの結果により成果が反映されなかったと考えられる。このPart Vは、1分間に最低でも80語程度以上で読める力と、即座に必要な情報を読み取る読解力が必要である。英文を速く読む力(速読力)と必要な情報を選択的に読み取る力(即読力)が要求される。英語があまり得意でない学生にとっては難しいと思われる。

以上の結果から、①リスニングテスト問題では、設問文は一度しか流れないので、解答にとまどって次の設問文を聞き落とさないように、集中力・音声内容を理解する能力を養うことが不可欠であること。英語の「聞く(内容を理解する聞き方)学習」習慣をつけさせなければならないこと。②リーディングテスト問題は、問題用紙に書かれたさまざまな英文を読み、自分のペースで問題を解答しなければならないので、一問にかかる時間を自分で調整し時間配分を考えること。さらに文字を読む速読力(即読力)が重要となる。③文法問題では、日常の社会生活に必要な文法の運用力、社会生活で使われる語彙の運用能力が問われる。このため英語を運用するために必要なレベルの語彙力を、普段の学習の中で訓練していくことが必要であるなどが明らかになった。そしてこうした点をどのように克服するかが、指導面・教材面から検討すべき今後の課題といえる。

Ⅲ-2. アンケート調査の分析結果

Ⅲ-2-1 性別データ

fig.-01~fig.33は、アンケート項目Iの男女別集計結果である。男女間において有意な差があるかどうかの目安として、分割表による検定(カイ2乗検定)を適用した。有意水準は5%に設定した。分割表のセル内データが小さい場合も含めて検定にかけているので、検出精度がやや劣るために参考値とする。

Ⅲ-2-2 男女間で差がある点

fig.-01より男子は女子に比べ英語が嫌いな比率が高く、半分以上が「いいえ」と回答している。

01英語は好きである。(女子45.5%、男子9.9%) から明らかである。

fig.-02,fig.-04,fig.-05,fig.-08,fig.-09,fig.-10,fig.-11,fig.-18より留学や海外旅行、英語圏の異文化理解など、女子は男子に比べて英語に関して積極的であることがうかがえる。この分野をさらに検討することで、女子学生が興味を持つカリキュラムを構築できる可能性が考えられる。

02英語を使う職業につきたい。(女子27.3%、男子3.7%)

04英語圏に留学したい。(女子36.4%、男子7.4%)

05海外旅行をしたいと思っている。(女子81.8%、男子56.8%)

08英語を使う専門職にあこがれる。(女子36.4%、男子6.2%)

09英語圏の文化や文学、またそこに住んでいる人に興味がある。(女子72.7%、男子19.8%)

10海外からの英語のニュースや情報をテレビで見たい。(女子54.5%、男子9.9%)

11大学では英語は必修であるべきだと思う。(女子81.8%、男子30.9%)

18英語を学ぶのは楽しい。(女子54.5%、男子8.6%)

Ⅲ-2-3 男女間で共通している点

fig.-03,fig.-06,fig.-13,fig.-19,fig.-21,fig.-32より、将来のために英語が必要であるとの共通認識が読み取れる。

03就職に有利だと思う。(女子72.7%、男子74.1%)

06外国で仕事をするとき、英語は役に立つと思う。(女子100.0%、男子93.8%)

13教養として英語ぐらい知っておきたい。(女子72.7%、男子51.3%)

19自分の視野を広げるのに英語は役立つと思う。(女子81.8%、男子66.7%)

21英語は国際語だと思う。(女子63.6%、男子67.9%)

32日本にいても外国人とのコミュニケーションに英語は必要だと思う。(女子63.6%、男子66.7%)

特に、fig.-12,fig.-14,fig.-27より、「英語を話せたらかついい」(女子72.7%、男子72.8%)、「英語の歌を理解したい」(女子63.6%、男子58.0%)、「映画、ファッション、歌などに興味がある」(女子63.6%、男子61.7%) などから、英語への憧れが強く感じられる。

Ⅲ-2-4 英語が好き・嫌い別データ

fig.-34~fig.64は、アンケート項目Iの英語が好き・嫌い別の集計結果である。男女間と同様に有意な差があるかどうかの目安として、分割表による検定(カイ2乗検定)を適用した。有意水準は5%に設定した。分割表のセル内データが小さい場合も含めて検定にかけているので、検出精度がやや劣るために参考値とする。

この結果から重要なことは、英語が嫌いであってもその重要性を理解しているということである。また、できることなら英語を話せたらかつこいいとか、英語圏の英語、ファッション、歌に興味があるとか、英語の歌を理解したいなど英語への憧れを抱いていることがよく分かる。英語の勉強はきらいであるが、重要性を理解していることと、憧れがあるのであれば希望が持てる。これらのことは以下のグラフからも読み取ることができる (fig.-35,fig.-37,fig.-38,fig.-44,fig.-46,fig.-51,fig.-53,fig.-59,fig.-63)。

アンケートのデータ分析には、数量化Ⅲ類を適用してアンケート項目ⅡやⅢとのリンクを試みたが、期待した結果が出なかったのでここでは割愛する(数量化Ⅲ類プログラムは今回新規作成したので、次回アンケート時に適用したい)。

IV. おわりに

TOEIC Bridgeの結果から、Part IとPartⅢでは、ほとんどの学生が以前よりも能力を伸ばし、スコアをアップさせた学生が多かった。このことから能力別クラス編成は、競争心が学生に芽生えて良い点を取りたい、TOEICのスコアを伸ばしたいなどの心理が、学習への「動機づけ」につながったとみてよい。有意な変化が見られなかったPart IV、Vのデータ結果から、リーディング能力を強化する必要があることが明白になった。またPart IVにおいても有意な変化がみられなかったが、1時間の授業を90分ではなく60分とし、週2回ないし3回の授業を行うような時間配分や指導方法を今後検討すべきであるのかもしれない。中学・高校で英語の文法が軽視されていることから、一年次に「Basic Grammar」などの基礎的な文法知識を再確認させ、英語力を強化する必要がある。そしてさらにPart Vから、速読の訓練の重要性を学生に認識させる必要性を痛感した。

今回の調査では、調査期間が短く十分な結果が得られず予備的な結果しか得ることができなかったのも事実である。が、次回の調査では開始時にいくつかの条件を明確にして始めるつもりである。特にアンケート項目とスコアとのリンクにより、内在する因子について詳しく分析してみたい(因子分析、数量化Ⅲ類など)。

学習意欲を高め、英語学習への「動機づけ」のほかの側面として、多種多様な留学・海外研修制度、学生が持つ各自の渡航経歴や英語能力に合わせて、海外で語学研修を受けさせることや積極的に資格科目への挑戦に取り組ませること、「English Lounge」のような日本語以外の言語しか使えない施設などで、学生への刺激を与えることもまた必要であると考えられる。

今後の課題として、実際のクラスなどの状況に特化した「動機づけ」と、クラスに存在する多様な個々の学生の「動機づけ」を汲み取り、動機づけを促進するためのMotivation Strategiesの効果を調査・検討したいと考えている。

【注】

(注1) 池田広子・福森 貢『パソコン活用におけるTOEIC (模試) の効果的な測定の開発と活用』
京都創成大学紀要第3巻 (2001年1月刊)

【参考文献】

国際ビジネスコミュニケーション TOEIC 運営委員会『TOEIC Bridge 公式ガイド&問題集』
(2002).

桜井茂男 (1997).『学習意欲の心理学』東京:誠信書房

宮原文夫,名本幹雄,山中秀三,村上隆太,木下正義,山本廣基.(1997).『このままでいいのか大学英語教育』東京:松柏社

小栗裕子 (2000).「リスニング力上達者にみられる特質—理系の場合」『滋賀県立大学国際教育センター研究紀要』5,87・96.

小栗裕子 (2001).「理系のリスニング能力にみる動機づけの違い」『英語教育研究』24号

Crookes, G. & Schmidt, R. (1991). Motivation: reopening the research agenda.
Language Learning, 41. 4. 469-512.

Ely, C. (1986). Language learning motivation: a descriptive and causal analysis.
Modern Language Journal, 70. 28-35.

Gardner, R.C., Smythe, P.C., Clement, R.,& Glikzman, L, (1976). Second-language learning: a social psychological perspective. *Canadian Modern Language Review*, 32, 198-213.

Oxford, R. L., & Shearin, J.(1996). Language learning motivation in a new key. In R. L. Oxford,(ed.), *Language learning motivation: pathways to the new century*.(pp.121-144) Honolulu: University of Hawaii.

『英語学習と英語資格についてのアンケート』

I. あなたは、英語のどのような理由または目的で勉強していますか。

1. 英語は好きである『(1)好き (2)どちらとも言えない (3)嫌い』
2. 英語を使う職業につきたい『(1)つきたい (2)どちらとも言えない (3)つきたくない』
3. 就職に有利だと思う『(1)思う (2)どちらとも言えない (3)思わない』
4. 英語圏に留学したい『(1)したい (2)どちらとも言えない (3)したくない』
5. 海外旅行をしたいと思っている『(1)思っている (2)どちらとも言えない (3)思わない』
6. 外国で仕事をする時、英語は役に立つと思う
『(1)思う (2)どちらとも言えない (3)思わない』
7. 科学技術の導入に英語は必要だと思う『(1)思う (2)どちらとも言えない (3)思わない』
8. 英語を使う専門職に憧れている『(1)憧れている (2)どちらとも言えない (3)憧れていない』
9. 英語圏の文化や文学、またはそこに住んでいる人に興味がある
『(1)興味がある (2)どちらとも言えない (3)興味はない』
10. 海外からの英語のニュース(CNN等)や情報をテレビで見たい
『(1)見たい (2)どちらとも言えない (3)見たくない』
11. 大学の授業で英語は必修であるべきだと思う
『(1)同意 (2)どちらとも言えない (3)不同意』
12. 英語を話せたらカッコいいと思う『(1)思う (2)どちらとも言えない (3)思わない』
13. 教養として英語ぐらい知っておきたい『(1)同意 (2)どちらとも言えない (3)不同意』
14. 英語圏の映画、ファッション、歌などに興味がある
『(1)興味がある (2)どちらとも言えない (3)興味がない』
15. 自分の専門分野の情報取得に英語は必要だと思う
『(1)思う (2)どちらとも言えない (3)思わない』
16. 英語でいろいろな国の人と話したい『(1)同意 (2)どちらとも言えない (3)不同意』
17. 英語を使って異文化を理解したい『(1)同意 (2)どちらとも言えない (3)不同意』
18. 英語を学ぶのは楽しい『(1)楽しい (2)どちらとも言えない (3)楽しくない』
19. 自分の視野を広げるのに英語は役立つと思う
『(1)思う (2)どちらとも言えない (3)思わない』
20. 自国の文化や言語をより深く理解するのに英語は役立つと思う
『(1)思う (2)どちらとも言えない (3)思わない』

21. 英語は国際語だと思う『(1)同意 (2)どちらとも言えない (3)不同意』
22. 英語の新聞や雑誌を読めるようになりたい
『(1)なりたい (2)どちらとも言えない (3)なりたくない』
23. 英語の読解力を身につけたい『(1)同意 (2)どちらとも言えない (3)不同意』
24. 日本語と異なる発音や表現の違いを学ぶことに興味を感じる
『(1)興味を感じる (2)どちらとも言えない (3)興味がない』
25. 英語の英語を字幕なしでわかるようになりたい
『(1)同意 (2)どちらとも言えない (3)不同意』
26. 英語の作文力を身につけたい『(1)つけたい (2)どちらとも言えない (3)つけたくない』
27. 英語の歌を英語で理解したい『(1)理解したい (2)どちらとも言えない (3)したくない』
28. 英語の聞き取り能力を身につけたい『(1)つけたい (2)どちらとも言えない (3)つけたくない』
29. 英語の文法力を身につけたい『(1)つけたい (2)どちらとも言えない (3)つけたくない』
30. 英語の会話力を身につけたい『(1)つけたい (2)どちらとも言えない (3)つけたくない』
31. 英語の語彙力を身につけたい『(1)つけたい (2)どちらとも言えない (3)つけたくない』
32. 日本においても外国人とのコミュニケーションに英語は必要だと思う
『(1)思う (2)どちらとも言えない (3)思わない』
33. テストで良い点を取りたい『(1)取りたい (2)どちらとも言えない (3)取りたくない』

II. 英語の資格と留学経験についてお聞かせ下さい。

1. 実用英語技能検定資格（英検）を持っている
(1)はい (2)いいえ
1-1. (はい) と応えた方は、次のどの級を持っていますか
(1)1級 (2)準1級 (3)2級 (4)準2級 (5)3級
2. TOEICを受験したことがありますか
(1)はい (2)いいえ
2-1. (いいえ) と応えた方は、大学卒業までに受験したいと思えますか
(1)はい (2)いいえ
3. TOEFLを受験したことがありますか
(1)はい (2)いいえ
3-1. (いいえ) と応えた方は、大学卒業までに受験したいと思えますか
(1)はい (2)いいえ

4. 英語の資格で、今一番受験したいと思っている資格は何ですか

- (1)実用英語技能検定 (2)TOEIC (3)TOEFL (4)国際英語検定G-TELP (5)その他

5. 今までに留学経験はありますか

- (1)はい (2)いいえ

5-1. (はい) と応えた方は、留学した国名を教えてください

- (1)アメリカ (2)イギリス (3)カナダ (4)オーストラリア (5)その他

Ⅲ. 英語の勉強してきた年数とあなたの性別についてお聞かせ下さい。

1. 今まで何年間、英語を勉強してきましたか

- (1)3年間 (2)6年間 (3)8年間 (4)10年間 (5)10年以上

2. 英語の4技能の中で、あなたが一番得意な技能はどれですか

- (1)話す (2)聞く (3)読む (4)書く

3. 今後、英語の4技能の中で身につけたい技能はどれですか

- (1)話す (2)聞く (3)読む (4)書く

4. 今、あなたにとって不十分な英語能力はどれですか

- (1)文法 (2)単語・語彙 (3)作文 (4)読解 (5)会話表現

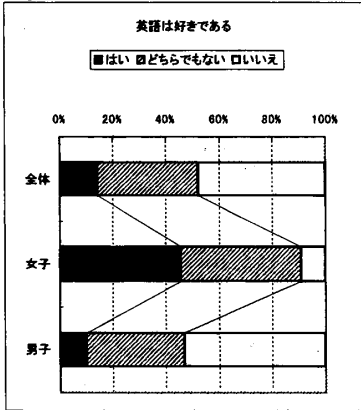
5. あなたの性別をお答えください

- (1)男性 (2)女性

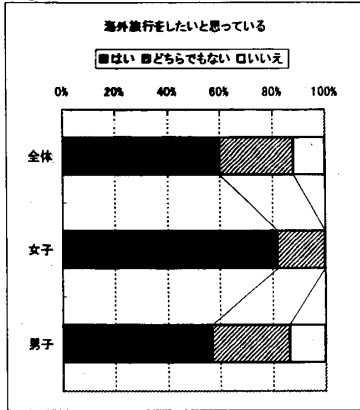
6. あなたの年代をお答えください

- (1)10代 (2)20代 (3)30代 (4)40代以上

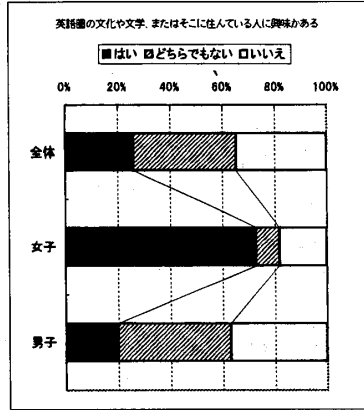
(fig-01 Q01) 有意差あり($\alpha=0.05$)



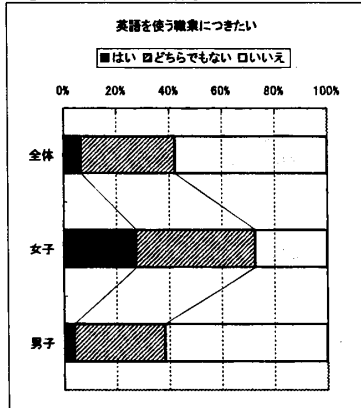
(fig-05 Q05) 有意差あり($\alpha=0.05$)



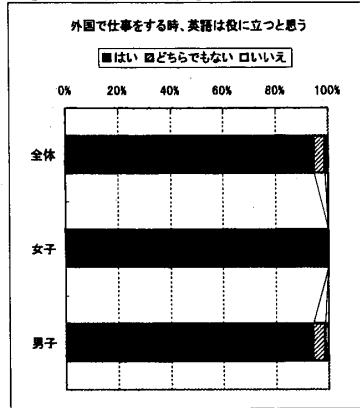
(fig-09 Q09) 有意差あり($\alpha=0.05$)



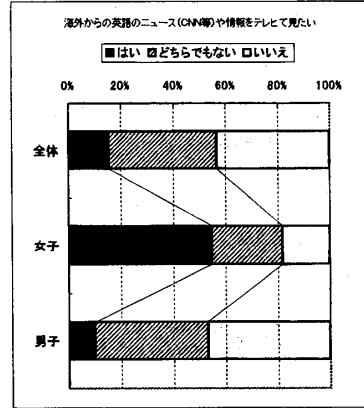
(fig-02 Q02) 有意差あり($\alpha=0.05$)



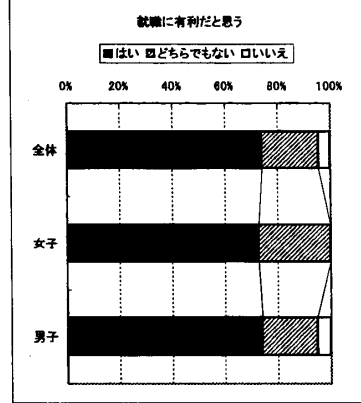
(fig-06 Q06) 有意差なし($\alpha=0.05$)



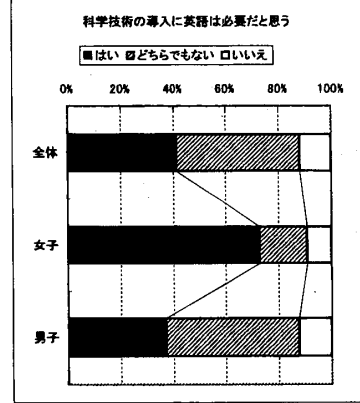
(fig-10 Q10) 有意差あり($\alpha=0.05$)



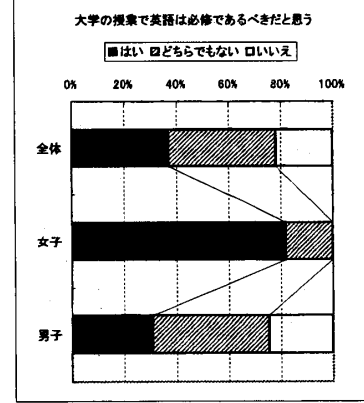
(fig-03 Q03) 有意差なし($\alpha=0.05$)



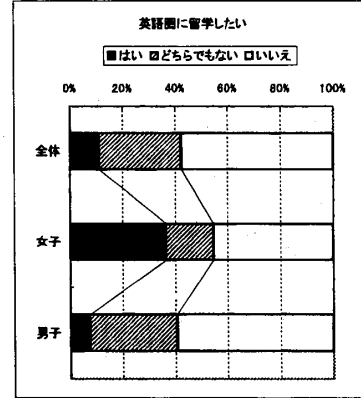
(fig-07 Q07) 有意差なし($\alpha=0.05$)



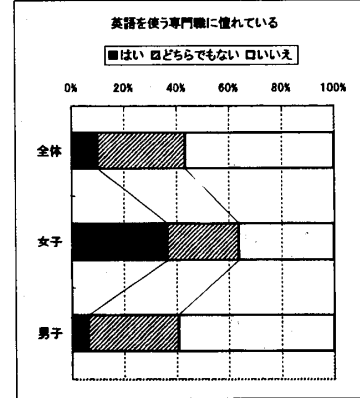
(fig-11 Q11) 有意差あり($\alpha=0.05$)



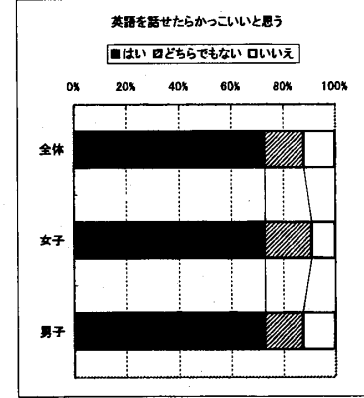
(fig-04 Q04) 有意差あり($\alpha=0.05$)



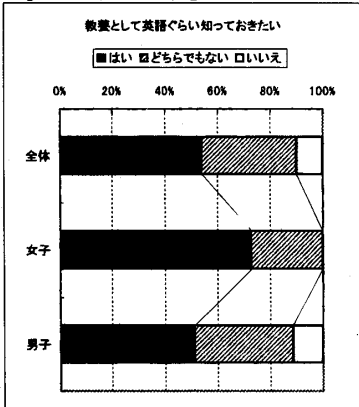
(fig-08 Q08) 有意差あり($\alpha=0.05$)



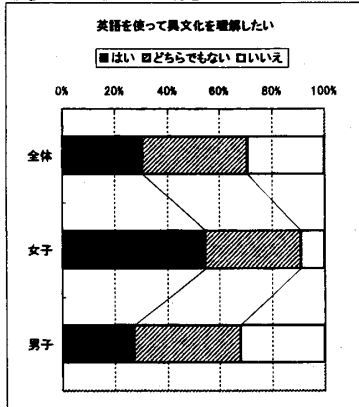
(fig-12 Q12) 有意差なし($\alpha=0.05$)



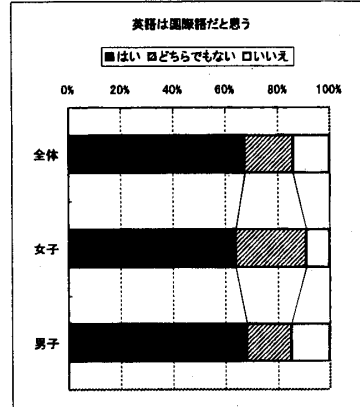
《fig-13 Q13》 有意差なし($\alpha=0.05$)



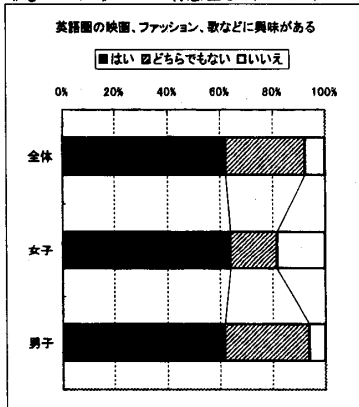
《fig-17 Q17》 有意差なし($\alpha=0.05$)



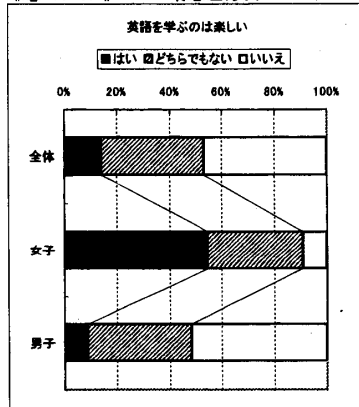
《fig-21 Q21》 有意差なし($\alpha=0.05$)



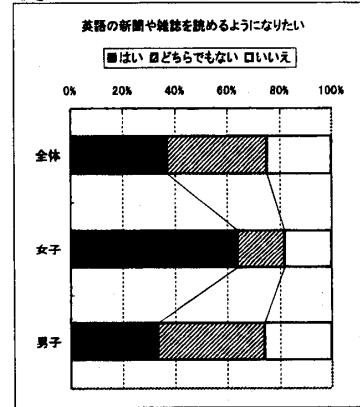
《fig-14 Q14》 有意差なし($\alpha=0.05$)



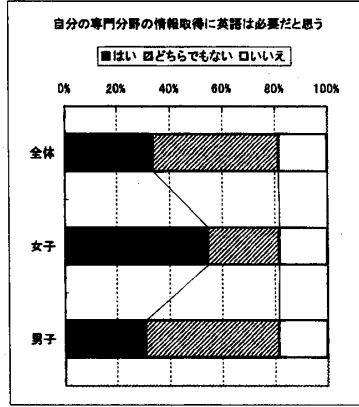
《fig-18 Q18》 有意差あり($\alpha=0.05$)



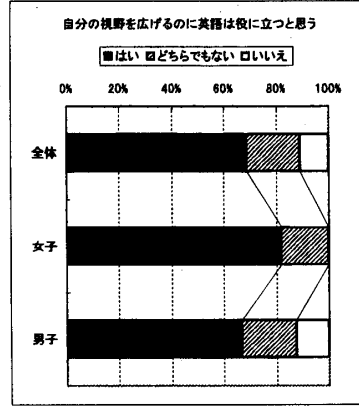
《fig-22 Q22》 有意差なし($\alpha=0.05$)



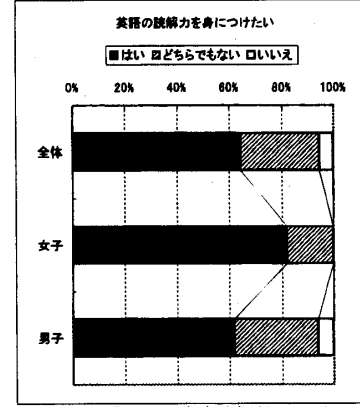
《fig-15 Q15》 有意差なし($\alpha=0.05$)



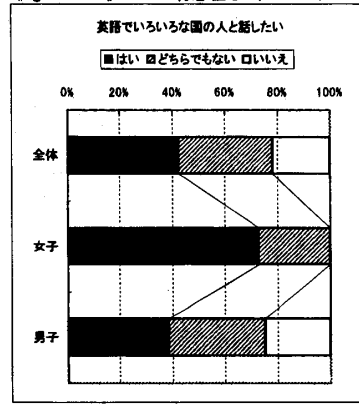
《fig-19 Q19》 有意差なし($\alpha=0.05$)



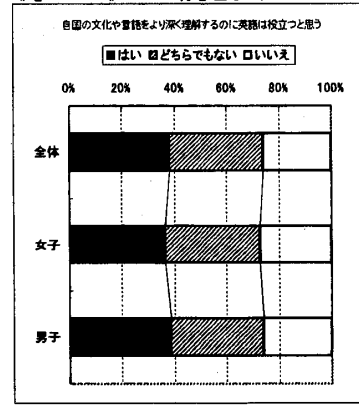
《fig-23 Q23》 有意差なし($\alpha=0.05$)



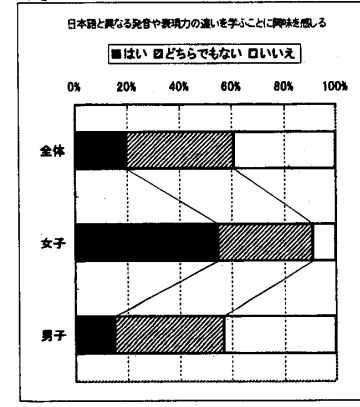
《fig-16 Q16》 有意差なし($\alpha=0.05$)



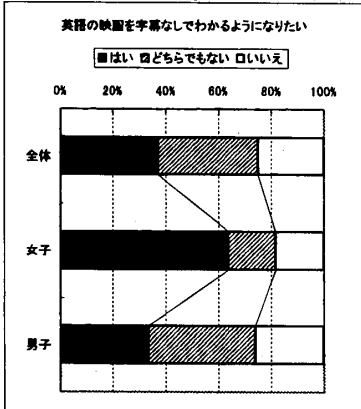
《fig-20 Q20》 有意差なし($\alpha=0.05$)



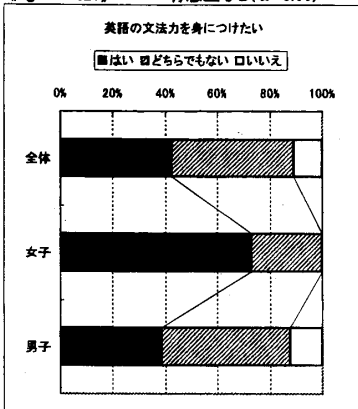
《fig-24 Q24》 有意差あり($\alpha=0.05$)



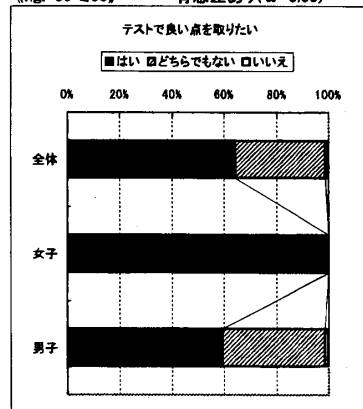
《fig.-25 Q25》 有意差なし($\alpha=0.05$)



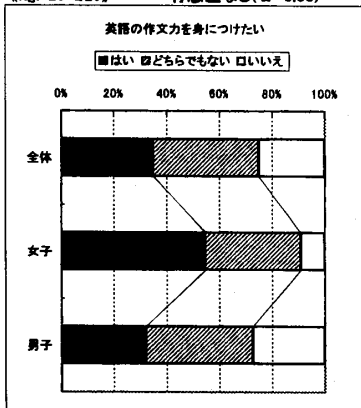
《fig.-29 Q29》 有意差なし($\alpha=0.05$)



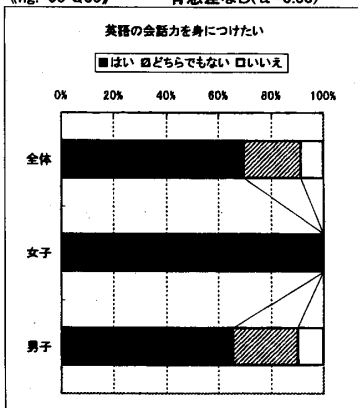
《fig.-33 Q33》 有意差あり($\alpha=0.05$)



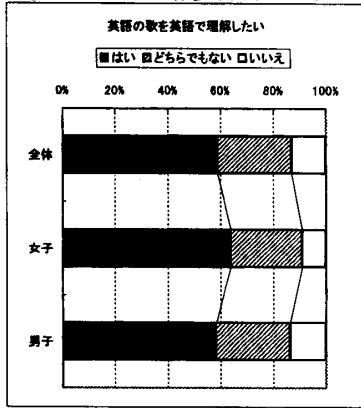
《fig.-26 Q26》 有意差なし($\alpha=0.05$)



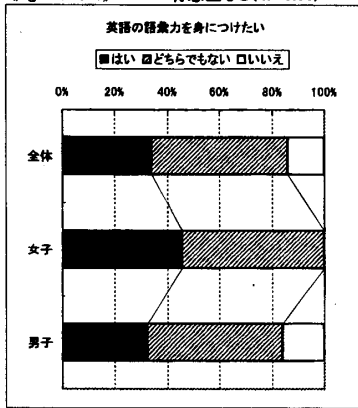
《fig.-30 Q30》 有意差なし($\alpha=0.05$)



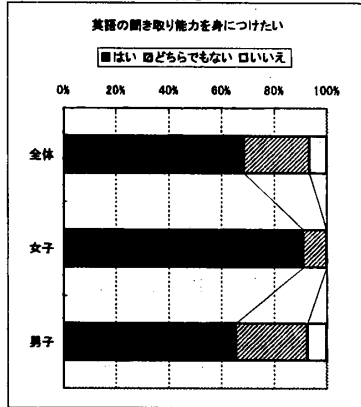
《fig.-27 Q27》 有意差なし($\alpha=0.05$)



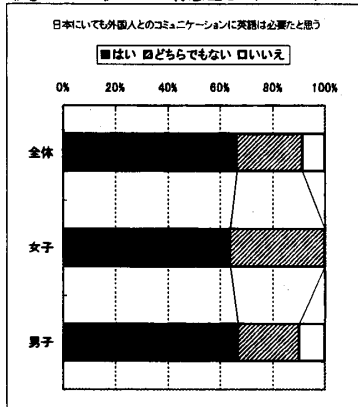
《fig.-31 Q31》 有意差なし($\alpha=0.05$)

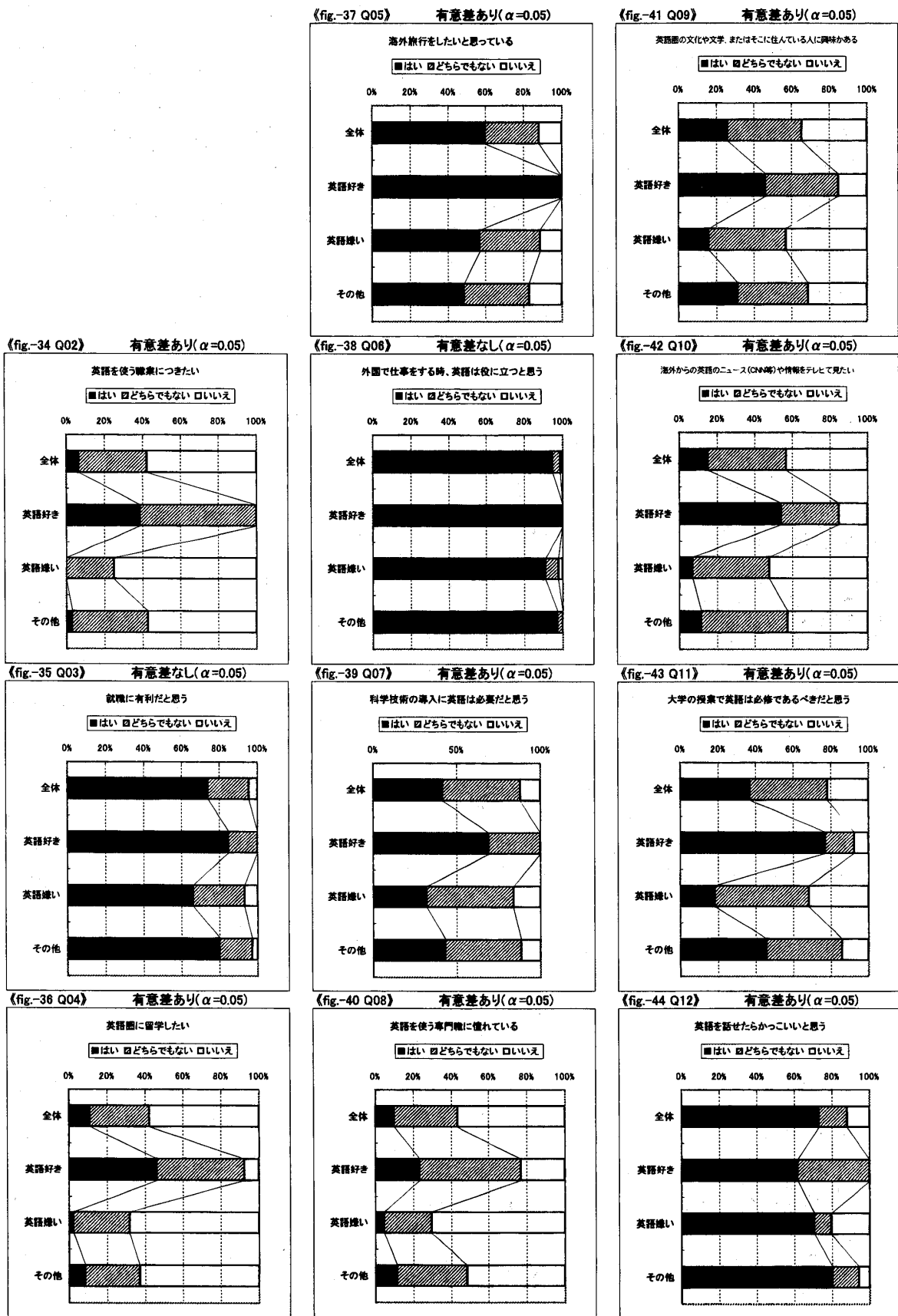


《fig.-28 Q28》 有意差なし($\alpha=0.05$)

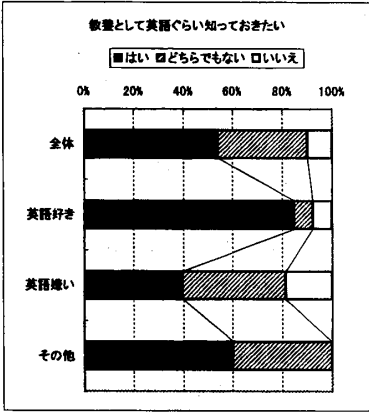


《fig.-32 Q32》 有意差なし($\alpha=0.05$)

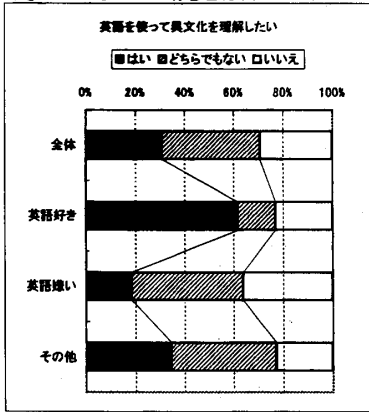




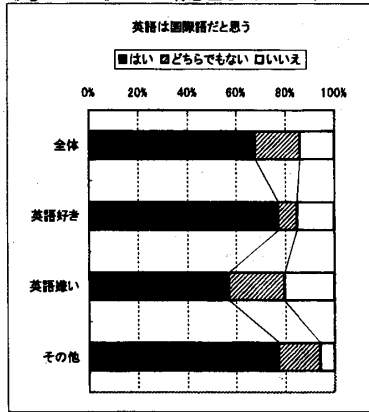
(fig-45 Q13) 有意差あり(α=0.05)



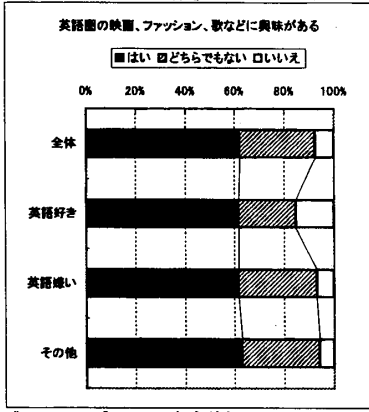
(fig-49 Q17) 有意差あり(α=0.05)



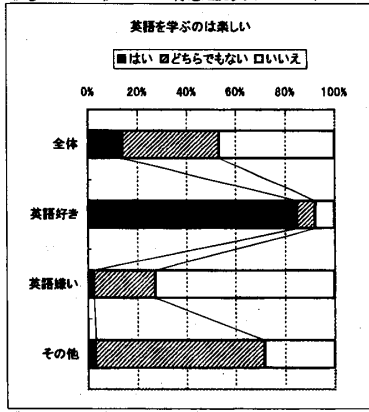
(fig-53 Q21) 有意差なし(α=0.05)



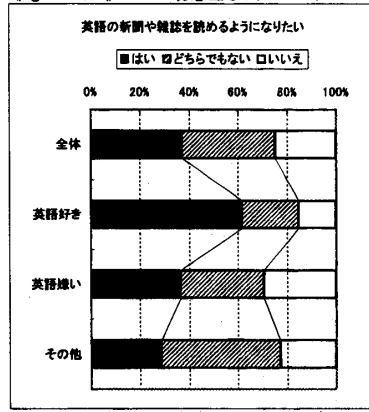
(fig-46 Q14) 有意差なし(α=0.05)



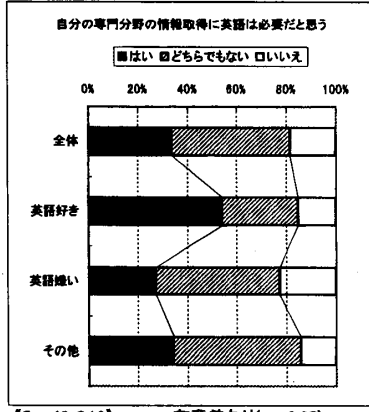
(fig-50 Q18) 有意差あり(α=0.05)



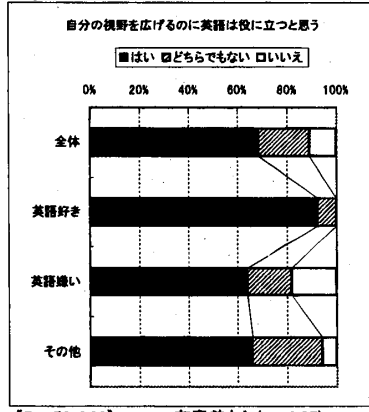
(fig-54 Q22) 有意差なし(α=0.05)



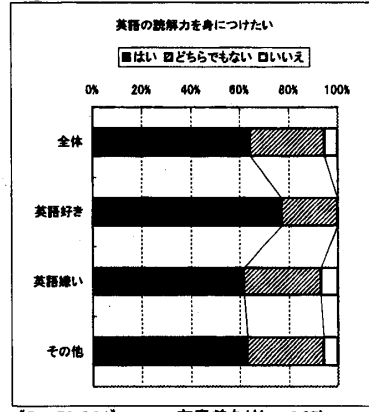
(fig-47 Q15) 有意差なし(α=0.05)



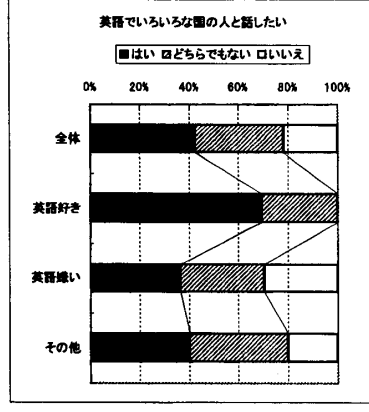
(fig-51 Q19) 有意差なし(α=0.05)



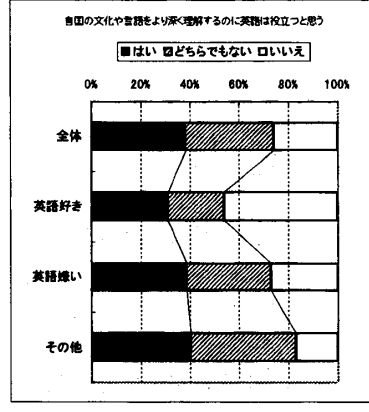
(fig-55 Q23) 有意差なし(α=0.05)



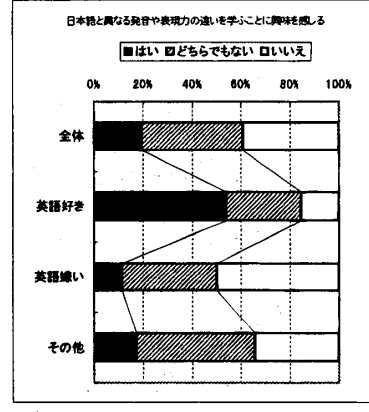
(fig-48 Q16) 有意差あり(α=0.05)



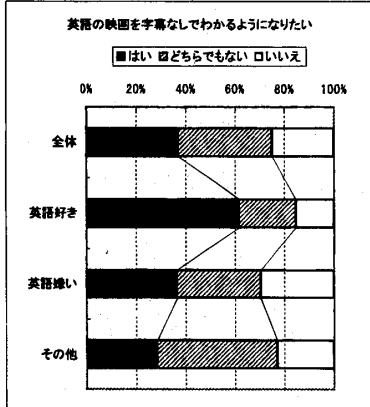
(fig-52 Q20) 有意差なし(α=0.05)



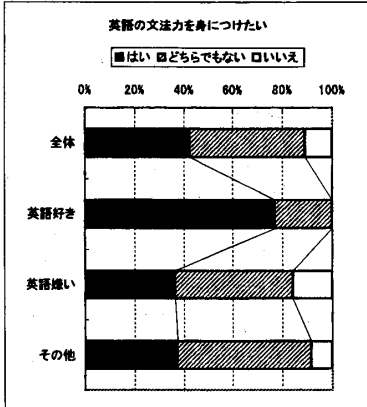
(fig-56 Q24) 有意差あり(α=0.05)



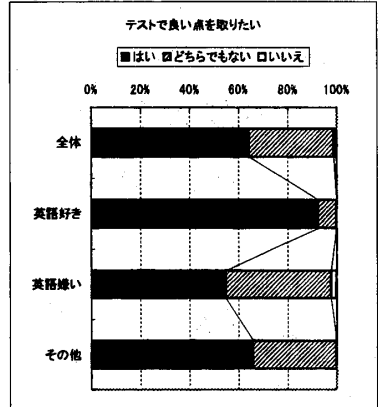
《fig-57 Q25》 有意差なし($\alpha=0.05$)



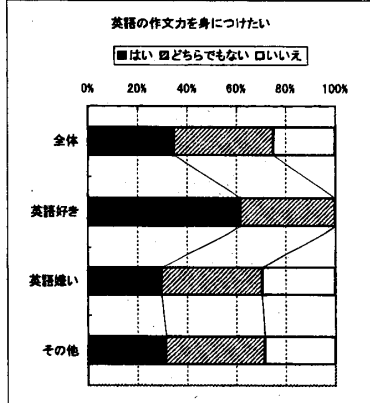
《fig-61 Q29》 有意差あり($\alpha=0.05$)



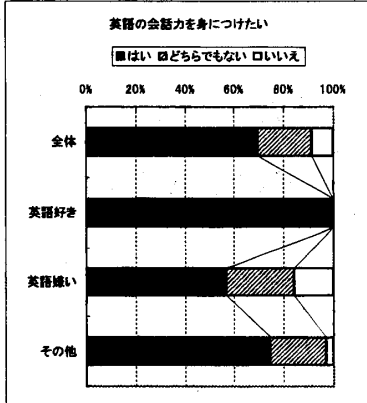
《fig-64 Q33》 有意差あり($\alpha=0.05$)



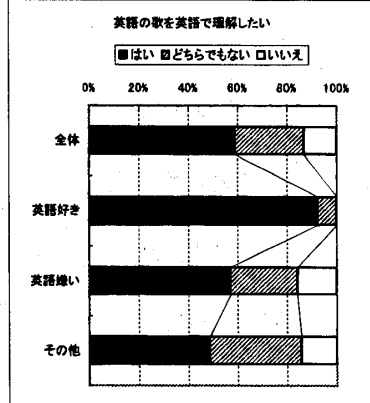
《fig-58 Q26》 有意差あり($\alpha=0.05$)



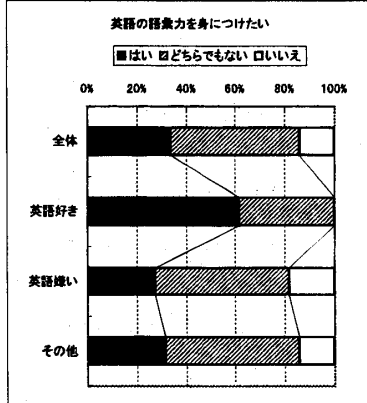
《fig-62 Q30》 有意差あり($\alpha=0.05$)



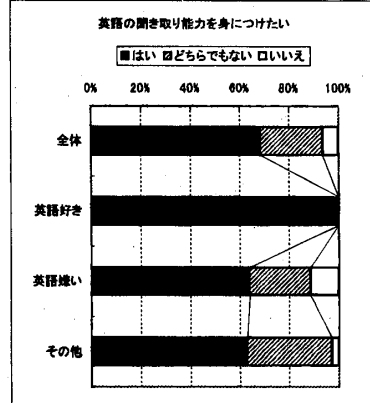
《fig-59 Q27》 有意差なし($\alpha=0.05$)



《fig-62 Q31》 有意差あり($\alpha=0.05$)



《fig-60 Q28》 有意差あり($\alpha=0.05$)



《fig-63 Q32》 有意差なし($\alpha=0.05$)

